

おれんじニュース

No306

2015年9月号



雨にまけず、風にもまけず、北海道大雪山旭岳をバックに並ぶ7名の顔。

今月の記事

夏の例会、いつだって花盛り in 金泉寺、尺岳～皿倉縦走、大雪山（旭岳～黒岳縦走・旭岳往復）、轟の滝～小松尾公園（銀鈴溪）、多良岳、五家原～経ヶ岳、仏頂山～宝満山、平和大行進完遂の宮島茂吉さんを悼む

	2015年9月	2015年10月	時間	場所
運営委員会	8日(火)	13日(火)	13:30～15:30	西諫早公民館
全体集会	23日(水)	28日(水)	19:00～21:00	

北海道の旅・花あり動物園あり



チングルマ



エゾノツガザクラ



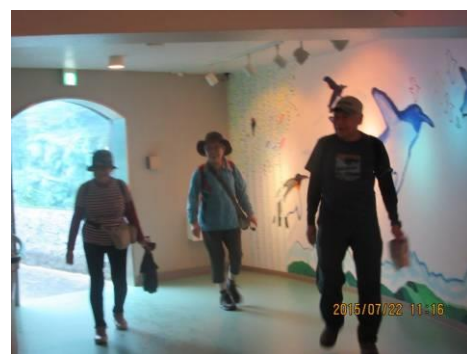
イワブクロ



ハイマツ&マット状のガンコウランの間に咲くイソツツジ?



美瑛川の源流。地下鉱物とアルミニウムが化合して青色になっている



2015 / 9月の山行



部	ひまわり山行部	技術研修部	自然保護部	山行部
月/日(曜)	9/11(金)	9/20(日)	9/22(火・祝)	9/27(日)
山名(行事)	大花山・二合半・ 鳥甲岳	木山内岳 (1401.2m)	高見山・女岳そこから 鬼木の棚田へ	石谷山・九千部山
地 図	多良岳	木浦鉦山	彼杵・嬉野	中原
集合場所	西諫早駅 8:00	諫早駅裏 5:20 西諫早駅 5:30	西諫早駅 8:00	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30
難易度	初級	中級健脚、	初級	初級
帰着時間	16:00	21:00	17:00	17:00
歩行時間	5.0h	5.5h	3.0h	6h
交通手段	マイカー	マイクロバス	マイカー	マイクロバス
宿泊施設	日帰り	日帰り	日帰り	日帰り
温泉	有り(希望者)	無し	無し	有
参加費	1,000円	5,000円	1,000円	4,000円
申込期限	定員になり次第	定員になり次第	定員になり次第	定員になり次第
集約	林	佐原	山口	高森
備考	シャクナゲの里から歩きます。多良山系の中で一番諫早に近い山並みのようです。	暑い時は滝に行こう。まず、観音の滝へとりつきます。そこからは沢を渡って高度を上げて行きます。	鬼木の案山子祭りに時期をあわせています。どんな案山子が見られるでしょうか？	御手水の滝から石谷山を經由し九千部山まで往復します。自然林に囲まれた心安らぐ縦走路、涼しい風に癒されます。
感想文提出	9/21	9/30	10/2	10/7

夏の例会

日時：9月6日(日) PM6:30～

場所：「花ざり」高城町8-2 (☎0957-23-1514) 無料PKあり (アエル駐車場)

会費：5000円

集約：田村 9月3日まで



2015 / 10 月の山行



部	ひまわり山行部	自然保護部	技術研修部&事務局	山行部
月/日(曜)	10/9(金)	10/18(日)	10/23(金)~10/24(土)	10/31(土)
山名(行事)	天草倉岳	稗ノ岳・丸田岳	黒原・京文、烏帽子岳・五勇山	根子岳東峰
地 図	大島子・棚底	長崎東北部・大村	葉木・国見岳	根子岳
集 合 場 所	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30	JR 西諫早駅 8:24	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30
難 易 度	初級	初級、	初級	初級、中級
帰 着 時 間	19:00	19:00	20:00	19:00
歩 行 時 間	4.0h	4.0h	23日(4h)24日(5.5h)	4. h
交 通 手 段	マイクロバス	JR	マイクロバス	マイクロバス
宿 泊 施 設	日帰り	日帰り	佐倉荘	日帰り
温 泉	?	有り	無し	有
参 加 費	5,000 円	交通費のみ	16,000 円	5,000 円
申 込 期 限	10/2	10/16	10/15	10/20
集 約	林	山口	佐原	高森
備 考	天草諸島の最高峰である。漁民と航海の安全を祈願して祀られた倉岳神社がある。	山頂のタンタン岩周辺は日当たりも良く、ダンギク、カワラヨモギ、イワガサ、イワヒバなどの群生が見られます。	オレンジHG35周年などアニバーサリーのお祝い多数あります。沢山の仲間です。祝いましょう。	地獄谷から天狗峰への紅葉は見事である。フシグロセンノウなどの花も見ることが出来ますよ。
感想文提出	10/19	10/28	11/3	11/11

技術研修部だより

9月26日(土) セルフレスキュー 西諫早駅 9:30

「いつだって花盛り in 多良岳・金泉寺・・・」

多良岳の金泉寺に女性登山者が集います。お昼に恒例の鍋を囲みます。

登山は中岳コースと多良岳コースです。皆さまの参加をおまちします。

日時：10月25日 9:30(多良岳・金泉寺) 雨天中止 15:00 解散

参加費：500円

申込は高森まで



2015 年7月/8月の山行

7月18日(土)

皿倉～尺岳縦走

(参加者) 鎗水、中須賀、間ノ瀬、林(和)、田中(静)、高田、山下(ち)、福岡、高森、大久保、中里

〈11名〉

(行程) 西諫早 6:30～小倉南 IC～菅生橋駐車場 9:00/9:20～菅生の滝 9:30～菅生登山口 10:06～尺岳平～尺岳 11:22～尺岳平(昼食)11:35/12:00～田代分れ 13:00～観音越 13:30～双子山南分岐 14:30～双子山北分岐 14:45～中河内林道分岐(エスケーブ)15:30～奥田川駐車場(河内池貯水池)16:10/16:15～大谷 IC16:45～八幡 IC～西諫早駅 17:10

(感想) 狭い道路、路肩は草が生い茂っている。ほんとにこの先に駐車場があるの？と思う程の道路が続く。あつた！と歓声が出るほど。

しかし、その駐車場がとても広く、その割に車が一台もなく閑散としている。車を降りた瞬間から沢の音が心地よく感じられる。さあ、出発だ。菅生橋を渡り落差 30m の菅生の滝へ、前日の雨のためその威力、迫力十分である。ここから、滝の上にある林道に出るために急な登りが続く。林道から菅生登山口を探すのに、地図やら、GPS



菅生の滝の前に整列

やら意見色々、ヤキモキしたが登山口発見で一件落着である。ずっと沢の音が耳を離れない。さあ、これから縦走の始まりである。Y リーダーを先頭に沢の音を聴きながら歩く。谷筋に沿って歩く。踏み跡の形跡もなく、赤の目印も殆どないがルートは分かり易い。しかし、途中沢の渡渉が 7 か所程あり、水量も多いため渡るのが難しい。その時、救助係の M 氏が先に渡り、CL の Y 氏と 2 人が腕を出してエスコート。頼もしい限りである。それを頼りに全員が沢を渡ることができた。その連携は、見事であった感謝！感謝！そして、尺岳平、尺岳(608m)へ。尺岳平に引き返し昼食。ここは、広い草原になっている。

さあ、これから、九州自然歩道を北の皿倉山に向かって歩く。昨夜の雨で落ち葉が湿って



いて足にはとても優しい縦走路である。

「田代別れ」「観音越し」と中々良いペースである。しかし、「観音越」辺りから後方が付いてきてない。と思うや、「足の痙攣が起こった」とのこと。休憩をとりながら、次のエスケーブルート(第一のエスケーブルートは過ぎていた。)で下山を考えていた。が、また、もう片方

も痙攣をおこしたとのこと。本人の汗の量は、尋常ではない。給水もかなりしている様子。救護の出番、荷物の振り分け等、チームの連携で、無事第2のエスケープ地点の中河内林道分岐に15:30 辿り着くことができた。皿倉山に行っても、後1時間半はかかりそうで遅くなりそうである、そのため全員がここで下山することになった。これから林道を東方へ河内池貯水池に向かって歩き、マイクロバスと出会うところで乗車。途中皿倉山の展望台を仰ぎ、名残惜しみながら高速を一路諫早に向かった。

今回計画書の作成を担当しましたが、終わってみると今の自分の未熟さをとても感じた。計画作成に対する姿勢の問題、情報収集の仕方・数、メンバーの歩く速さの把握、地形図の読み込み、等々……。

今までは、立てられた計画に参加するだけで楽しく参加していました。しかし、この経験をしたことにより、計画者、CL、の分かったつもりでいたご苦労・責任感が、計り知れないほどのものであると感じました。それを、毎月、計画されていること本当に頭がさがります。

一朝一夕にして身に付くものではありませんので、先輩方の力を借りながらこれからも、成長して行きたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。(林 和子記)

7月21日(火)～24日(金)

大雪山(旭岳～黒岳縦走、旭岳往復)

(参加者) 兵庫、福岡、佐原、田村、山下文代、山口、中野 (7名)

(行程)

7月21日 旭岳石室往復、ロープウェイ 15:00～娑見駅 15:10 ～娑見の池～旭岳石室～
ロープウェイ 16:45 大雪山白樺荘(泊)

7月22日 動物園見物(ジャンボタクシー利用) 白樺荘 9:30～旭山動物園 10:30～12:30～
流星、銀河の滝～層雲峡 14:30 層雲峡観光ホテル(泊)

7月23日 黒岳石室往復 黒岳ロープウェイ、リフト 8:00～黒岳へ出発 8:40～頂上 10:25
～黒岳石室 11:15(昼食)、11:30～黒岳 12:00, 12:20～リフト駅 13:45, 14:15～(バス)
層雲峡 15:40～旭川駅前 17:30 旭川トヨーホテル(泊)

7月24日(ジャンボタクシー利用) ホテル 7:30～四季彩の丘 9:45～ 10:05～富田ファーム
10:40～11:05～旭川空港 11:30～13:05～羽田空港 14:50～17:45～長崎 19:35

(感想) “北海道の山に登る”という私たちにとっては願ってもない山行でした。天気には恵まれませんでした。それぞれ色々な事を見たり、感じたり、経験したりしましたので今回は紙面が多くなるかもしれませんが参加した全員が感想を書きました。

兵庫芳隆

北海道の山に登りたいとの声が今年の初めごろから囁かれだした。北海道では大雪山のトムラウシ山が有名だがこれはチョット体力的に手強す



ざる。それなら同じ大雪山の北海道で一番高い山に登りたいと思い旭岳に照準を合わせた。旭岳から黒岳までの途中には二番目に高い北鎮岳もあるじゃないか、これならなんとかなるだろうと、旭岳のみの組と旭岳～黒岳縦走の組との二本立てで計画を進めた。

21日午後旭岳白樺荘に到着。だが翌日の旭岳登山予定日は天候不良との予報。大事をとって旭岳は断念する。代わりに今日のうちにロープウェイで姿見まで登り周囲を散策する。

眼前に聳える旭岳の雄姿は登頂意欲をかき立てられるが、残念ながら今日は旭岳石室まで。レ・ミゼラブル(ああ・無常)またの機会はあるのだろうか？

22日は予想通り雨。旭岳の中止でスケジュールが大幅に狂う。しかし昨夜の内にジャンボタクシーの採用提案・交渉とオレンジガールが率先してテキパキと事を進めていたため、待ち時間の短縮と行動範囲を広げられた。頼もしきかなオレンジガール。

23日はせめて黒岳だけでも登ろうと層雲峡からロープウェイに乗る。ペアリフトを降りるとエゾシマリスに出迎えられる。人なれした可愛いエゾシマリスが入れ替わり立ち代り出てきて登山者の目を和ませてくれる。カメラも意識しサービス満点だ。



黒岳への登りは高山植物の花の中をジグザグに登る。昨夜は坐骨神経痛が出て登山できるだろうか心配だったが、今日は痛みも解消している。

山に元気をもらったのだろうか。最後の北海道になるだろうからと参加された最高齢のSさんは、体調があまり良くないのか徐々に遅れだす。眺望が利けば気分転換にもなり、元気もでるのだろうかガスっているためなおシンドイのか。黒岳山頂まではとSさんのペースで二人ゆっくりと登る。黒岳山頂では僅かなガスの切れ間に旭岳方面へ続く道と雪渓を残した山並みが見える。山頂には他の登山者も沢山いるのでSさんには休憩してもらっていて、一人で本隊に出遭う所まで追ってみる。

黒岳石室で昼食をとり引き返す準備をしている本隊にやっと追いつき合流する。旭岳はダメだったが黒岳石室までいけたことで納得することにしよう。

メンバーの皆さんお疲れ様でした。またオレンジOBで毎年夏場北海道で過ごされているIさんには計画段階から、さらに層雲峡にも来られてアドバイスをいただき大変お世話になりました。ありがとうございました。

福岡正廣

私は生まれて初めて北海道に来ました。話には聞いていましたがその凄さにはビックリ。

姿見の池まで行く遊歩道の両側には高山植物が群生していて見事でした。また周りの景色も素晴らしく感動しました。

北海道で一番高い旭岳はどっしりと大きく中腹から吹き上げる噴煙とその姿を投影させる姿見の池を従えた山容は格調高く品格があり、雄大な眺めに感動しました。

黒岳に登る途中の斜面にもお花畑があり、目を楽しませてくれました。山頂につく頃には雨も止み、見晴らしが良くなりうれしかった。雪渓が残った



壮大な山々の景色が見られたので北海道に来て良かったと思う、幸せな気分になった。山頂から黒岳石室に行く道の両側にはコマクサなど沢山の高山植物が咲き乱れていて思わず興奮してしまいました。

旭山動物園も色々なアングルから動物が見られ、迫力があって楽しかった。



その他、美瑛の丘、ファーム富田、四季彩の丘など見ることができてよかった。

天気が悪くて旭岳から黒岳の縦走が出来なかったのが心残りです。

佐原満子

今回は最後の遠距離の山行と思い参加しました。天気には余り恵まれませんでしたがかえって照らされることもなくよかったかもしれません。色々な山に登りましたがそれぞれ良さがあります。北海道の山には雪渓が残っているし、可憐な高山植物に出会えてとても良かったと思います。同行した人たちとの語らいもまた楽しく、ファイトが沸きました。まだまだ登ります。

田村満子

大雪山登山計画が2ヶ月前に予定されてからの時間の流れが実に速く感じられた。

旭川空港についてすぐに天候の都合でロープウェイで姿見の池まで登りました。旭岳を目の前にして高山植物と池を眺めながら、明日はきっと旭岳にのぼれるようにと祈りつつ散策をした。しかし神はオレンジのグループには味方してくれなく、土砂降りの朝を迎えた。一日置いて黒岳登山に決まり、7合目からの登山だったので私の体力にはちょうど良かった。黒岳を通過して石室まで800メートルを足早に向かう。途中で霧がかかったり消えたりだったが積雪と山々が見えてしっかり脳裏に焼きついた。



二年前にも黒岳登山をしたが、時期が違ったら目に入る光景も違って写る。

九州では見ることのできない北海道の山々はすばらしい。北海道の山へ二度も来ることができて感謝の気持ちで一杯である。

二ヶ月近く多良岳方面で訓練をしてくださったKさんにお礼申し上げます。また来年願いがかなったら旭岳往復を計画してほしいな一なんて、体力的に無理だろうが希望は持ちたい。最後になりましたがグループの方々に本当に和気あいあい、楽しく4日間過ごさせてもらい、ありがとうございました。

山下文代

今回の最初の宿泊場所白樺荘は、かつてユース・ Hostelだったそうだ。40年前一人北海道を旅したがおそらくその頃が全盛期であったろうユース・ Hostelはノーテンキなプー子プー太郎で活気に満ちていた。そして現在、利用者は激



減し、ユースは存亡の危機にあるという。それからすると白樺荘は部屋は相部屋で以前のものであるが、食事は格段に良くなっていたし夕食後のミーティングもないし国民宿舎やユースを上手くミックスして生き残った成功例といえるかもしれない。相部屋ゆえ有益な情報も得ることもできるし、その長所を再認識した一泊だった。山のことに關しては他の人が沢山感想を述べると思うので簡単にすませる。縦走組みに入れてもらっていたが今の私は力不足と思い知った。そして思い込みによる失敗もあった。これはプランから予約まで H 氏に甘えすぎたためだろうし、グループ山行ともなれば一人旅以上に緊張し最大限自立していることが大事だと反省した旅だった。六人の先輩方ありがとうございました。

山口いつ子

北海道の最高峰旭岳～黒岳への縦走にむねふくらませて臨んだのですが雨に見舞われ実



現できずに残念でした。旭岳は 10 分間のロープウェイで近づくにつれてどっしりとした雄姿に赤茶けた基部からは数箇所の噴煙が噴出し、姿見の池、鏡池にはそれを投影させており雄大なすばらしい景観でした。

黒岳にはロープウェイ、リフトで 7 合目まで運んでもらい、そこで愛らしいエゾシマリスの歓迎を受ける。登山道ではチングルマ、ハクサンチドリ、マルバシモツケ、コマクサ、ウコンウツギなどの花々が咲き乱れ目を楽しませてくれた。1 時間ほどで山頂へ。山頂は 360 度の大パノラマでガスが晴れると残雪の白と緑のコントラストがすばらしく、山系の山並みを一望できました。近くにある黒岳石室では水、トイレがあり夏場 3 ヶ月だけ滞在の店の主の笑顔はまさに登山者のオアシスの様でした。

計画通りにはいきませんでした。旭山の動物園や美瑛、富良野等のパッチワーク畑も見物で楽しい山行となりました。計画からすべてお世話いただいた F 氏、H 氏本当にありがとうございました。そしてみなさんお疲れ様でした。

中野美津子

旭岳からはトムラウシ山、と十勝連峰、北鎮岳、比布岳、北海岳、白雲岳、そして黒岳からは 360 度の景観、はるか阿寒の山々や天塩山脈が遠望できることを夢見て出発しましたが、残念ながら天気が味方してくれませんでした。でも初日、黒岳から縦走してきた人たちが 9 時間半かかったと疲れきった表情で話しているのを聞いたとき、逆に天が味方してくれたかなとも思いました。そのような中でも、旭岳のふもとから、また黒岳頂上から眺める北海道の山々は霞んだり、時々しか姿を現しませんでした。雪渓を残すその雄姿は感動的でした。これが晴れていたらとついつい思いましたが“また、北海道においで！”という啓示かとも思いました。しかし北海道は広い。どこでもまっすぐな一本道がつづきます。そして外国人が多い。特に東南アジア系の人たちが多く、バスに乗ると日本人のほ



うが少ないのではと思うくらいでした。YさんとTさんは日本語らしからぬ日本語とあやしい英語（失礼）でインドネシア女性と仲良しになり、堂々とした国際交流ができていました。今回縦走は出来ませんでしたが時期がよかったのか、高山植物には沢山めぐり合ったし、美瑛、富良野では見事なパッチワークの花壇に出合い、自然の美しさと人工的な美しさを同時に見ることができました。そしてオレンジに入っていればこそその楽しい旅行ができたことに改めて感謝しました。（写真提供 田村さん・中野さん）

7月26日（日）

轟の滝～小松尾公園（銀鈴溪）

（参加者） 田中静、森、林孝子、佐原、川原、下ちず子、野中、中里、田村、山口、松田、高田、大久保、高森、船津、林和子、鎗水、一般（田川）（18名）

（行程） 西諫早駅 8:00～轟の滝キャンプ場駐車場 9:00～9:10 出発～夫婦滝～大渡橋 11:30～小松尾公園溪流（ソーメンパーティー&昼食） 12:30 出発～小松尾公園上部林道へ～多良岳ツクシシャクナゲ群落地（3名のみ）～ゴミ拾い～下山～大渡橋～キャンプ場駐車場まで舗装道路歩き～駐車場着 13:30（散会）～諫早着 14:50

（感想） 前日からの台風12号で中止になると思いきや、朝から雨も降らず快適な山日和となった。今日で3日間連続で多良山系に行く事になってしまった。

今回の山行は、ソーメンをゆでて来るというミッションを言い渡されていたのでキャンセルも出来ない。西駅に行くと北海道から帰って来たばかりのメンバーも何人も参加されているではないか！恐るべしオレンジガール(昔の)！3日間の多良山系ぐらいなんのそのだ！



中里さんの車に乗せてもらって轟の滝キャンプ場駐車場に着くと久保夫妻が車で来られていた。偵察に来たとの事。銀鈴溪はすごく荒れているよとのこと。

我々は、予定通りに銀鈴溪に進む。道は沢沿いで危険な所もあるがオレンジ隊はひるまない。雨で濡れていて足元が悪い。何とかロープなどで安全を確保しながら歩く。猪がぬた場に似たような泥水貯まりがあると思った

らいきなり子犬くらいのウリボウが飛び出して来た。私もびっくりだが向こうもビックリだったと思う。谷底へ消えて行った。大渡橋に着いて3班のメンバーを待ち、小松尾公園に移動する。去年と同じ場所に行き、ソーメンを沢の流れで冷やして食べる。青シソや、茗荷を切って薬味も充分。ソーメンは何束ゆでてきたのだろう。食べても食べても無くならない。沢にこぼしたソーメンを沢蟹が食べていた。

ソーメン流しが済んで、帰るだけと思っていたらこ



こから小松尾公園の上部へ登るという事になった。溪流沿いで涼しいので帰るのはもったいない。今頃下界は台風の接近で蒸し風呂のような暑さであろう。いやあ、しあわせ！滝を愛でながら歩ける幸せ！！金泉寺への登りの林道分岐まで上がってからゴミ拾いをして自然保護部の活動をする。車が通る所なのでゴミが多い。ここからツクシシヤクナゲ群生地までは7分で辿りつく事ができる。皆を誘ったが2人しかついてこなかった。



ここから又来た通りに戻り大渡橋からは舗装道路をキャンプ場駐車場まで歩いた。去年はソーメン流しの途中から雨が降り出しここの舗装道路を歩くのが長く感じられたが今年は雨も降らずに涼しくて楽に歩く事が出来た。

キャンプ場に着くと下流の所でバーベキューをしている家族がいた。しかし、後始末はどうするんだろう？沢で鉄板を洗わないかな？少し気になった。しかし、ソーメン流しも環境にやさしくない気がした。境川の上流でソーメンを流し、下流ではバーベキューをやり、川の環境は保護されているだろうか？疑問を持ちながら我々の車は諫早に着いた。2時50分だった。台風の影響で雨が降り出した。タイミング良く行事を終え家路に着いた。ソーメンやツユ、薬味のお世話をされた自然保護のみなさま、大変お世話になりました。(山下ちず子記)

7月31日(金)

多良岳(オオキツネノカミソリ鑑賞)

(参加者) 兵庫、田村、林(孝子)、鎗水、小山、松田、濱口、佐原、中里、吉川、福岡、中野、一般(柳瀬、佐藤) (14名)

(行程) 西諫早駅 8:00-9:40 黒木 9:50~11:45
金泉寺(昼食)12:15~12:55 多良岳~13:50
金泉寺 14:10~15:45 黒木-16:40 西諫早

(感想) 私は久しぶりの山行です。多良岳は金泉寺コースしか登ったことがありませんでした。今回は黒木からの登山、ちょっとドキドキです。天気は快晴。

4台の車に分乗して西諫早駅を出発、ダム運動公園駐車場に着く。準備をし、八丁谷登山口へ多良岳登山出発。ゆっくりペースで息も上がらず樹林の中へ落葉やゴロゴロ石を踏みしめて歩く。だんだんと高低差が出て来ました。左右を見渡すと水流が多く、沢あり、滝あり、沢がにも見る事が出来



ました。

急坂やジグザグ坂、平坦な道、急坂を登り続けると天然記念物の



オオキツネノカミソリが群生していました。時期が過ぎていたのか花の色が褪せていた。西野越に登り着くと金泉寺分岐。ここから 10 分ほど下ると金泉寺です。ここで皆さんと昼食を取りました。その後は希望者だけ多良岳山頂に行きました。13:50 頃に金泉寺に着く。元来た道を滑らないように気を付けて無事下山することが出来ました。リーダーの方々大変お世話になりありがとうございました。(松田 記)

8月1日(土)

五家原～経ヶ岳

(参加者) 川原、松岡、鎗水、大久保、小熊、田中(静)、山下(ち)、林(和)、間ノ瀬
佐賀(森田、直塚、今泉) (12名)

(行程) 西諫早駅 7:00—黒木駐車場 8:00・小川内・五家原 10:30・中岳・西岳・
笹岳南峰・中山越・経ヶ岳・中山越・八丁谷・黒木駐車場 17:15

(感想)

九州北部は梅雨明けが平年より 10 日遅く 7 月 28 日に梅雨明け、ムシムシした毎日を過ごしていたが、暑い時季に長い距離・時間を歩くことを心配しながらの参加。黒木駐車場には 8 時頃着いたが既に多くの登山者の車が停まっており、今が時季であるオオキツネノカミソリを一目見る登山者だと思われる。



我々 12 名は 8 時小川内谷沿いに五家原岳から

経ヶ岳縦走を目指す。当初は沢沿いのため涼しく心地良く足も軽快であるが高度を増すとともに風もなくなり黙々と歩く。

幸いしたのは途中横峰越をショートカットする事が出来、この先の長い行程を考えると得した気分になる。五家原岳(1057.3m)では地図を広げることもなく次の目的地である西野越へ。

五家原岳からしばらくは急斜面の下り、壊れかけの梯子あり・ガレ場ありで浮石に足をとられないように注意しながら歩く。中岳(1000m)を過ぎたころ先頭を歩く Y さんのキヤーという驚くほどの奇声、何事かと思えばマムシの挨拶。

西野越では一輪の姥百合(名前の由来は花が咲くときには葉がなくなり・・・歯がないとの事で姥百合とついた名前である事を教えてもらう)を横目に見ながらの昼食休憩、ここから 50m ほど下りるとオオキツネノカミソリ群生地がありこの開花時季だけ山へ入ってきたという服装・装具の登山者を見ると下山中の事故が心配である。

食事を終わり西岳(963m)に向かうも最初から登り、食事と休憩直後でもあり体が重く足が思うように上がらないがここは 10 分ほど我慢の時間帯。そのご褒美として西岳を過ぎた東側の谷にオオキツネノカミソリ群生が迎えてくれた。

中山越を過ぎ舞岳と経ヶ岳方向への道標があるも舞岳方向へ進み、五家原岳でショート

カットした分がここで御破算となり、本尾根に取りついた後は山頂まで急登歩きが続く。小鳥のさえずりを唯一の励みに山頂着。

経ヶ岳（1075.7m）山頂ではトンボの群舞が我々を待っていてくれた、と同時に我々が歩いて来た多良山系の稜線を見ると、これまでの疲れも吹っ飛んでしまった。

最終行程として経ヶ岳から中山越、ウナギテ沢を經由しゴール地点の黒木駐車場へ。

岩場ありガレ場ありの難所、アブに悩まされた尾根・谷歩き、汗で服がビッショリと濡れながらも沢での冷たい風を体感しながらゴールまでの約9時間、一人の怪我もなくほぼ行程表通り歩きとおせたことには参加者の体力に感服すると同時に今回の山行を計画されたYさんに感謝し多良山系を背に帰路につく。

（小熊 記）



8月8日(土)

仏頂山 (869m) 宝満山 (829m)

（参加者） 鎗水、福岡、松岡、高田、小熊、山下(ち)、林(和)、松田、田中(静)、宮崎 (10名)

（行程） 西諫早駅 6:30～筑紫野 IC～林道後田線ゲート 8:40～提谷(ひさげだに)登山口
8:50～百日絶食碑 10:20～仏頂山(昼食)11:45/12:15～宝満山 12:40/13:00～百日
絶食碑 13:40～シラハケ尾根～登山口 14:30～二日市温泉～西諫早 17:45

（感想） 連日記録的な猛暑にダラダラと気力が萎えてしまいそうな一日、滝と深い樹林を求めて宝満山へ裏宝満山渉覧山水ルートの一つ、提谷新道を登った。地形図では歩く距離はそれほどでもないと思っていたが、急登も多く、岩場、鎖、ちよつとした沢渡渉とバリエーションに富んだル



トで歩き甲斐があり、思いの外時間

がかかった。二ノ滝、初音の滝、女滝、水垢離の滝等々数多くの滝の傍を通過。涼しげな様子に「ここで水遊びした～い！」の聲が前から後ろから。

ロープで岩場を登ると百日絶食碑。ここで仏頂山へのルートがわからなくなったがT氏が見つけて全員後に着く。険しい斜面の上がりて岩場も多い。用心しながら登る。金の水で岩清水を飲む。冷たさ今一つかな？巨大な岩の下にぽっかり空いた普池の窟。入口から覗くと広く数体仏像が安置されていた。

仏頂山は心連上人の墓と伝えられる石祠があり、宝満山のような賑わいもなく樹林に囲



まれ静かで涼しい山だった。予定変更してここで昼食になった。Hさんのきゅうりのピクルスや塩漬けが疲れた身体に美味しかった。Mさんのコーヒーにもホッとした。

次なる宝満山の山頂直下の巨大な岩を鎖でよじ登ると視界が開けた山頂で、多くの人が休んでいた。日影がなく暑いので集合写真撮影後キャンプセンターに下り休憩をとった。

帰路はシラハケ尾根へ。歩きやすい樹林帯の中、時折風が涼しい。下るにつれ暑くなってきて、このまま帰りたくないよ～の音がする（笑）温泉で汗を流しサッパリしたら一路諫早へ。きつかったね。楽しかったねの声。今日のルートは変化に富みよかった。計画ご苦労様でした。ありがとうございました。（田中静香 記）

平和大行進完遂の宮島茂吉さんを悼む

平成27年6月8日、オレンジハイキングクラブ前会長の宮島茂吉さんがお亡くなりになりました。同9日多良見葬儀社でしめやかに葬儀が営まれ労山県連からも幾人かの参列がありました。この7月下旬にはご遺族から「無事忌明けの法要を済ませました」との丁寧なご挨拶をいただいた。

宮島さんは多良見町木床のオレンジ栽培者で川原慶紀さん・福岡正廣さんらとともに本クラブ設立時会員でした。

福岡現会長の前に平成20年8月まで約5年間会長を務められかつ、平成21年まで県勤労者山岳連盟理事も務められました。氏はやさしい風貌で温厚な方のように見えたが、オレンジ全体会などでの理事会概要等説明中に雑談がひどいと高い声で怒られる生真面目なところも幾度か見せられた。

県勤労者山岳連盟は「登山は平和な世だから安心してできる」という信念から毎年8月に「被爆遺構・碑めぐりと平和登山」を主催し、また日本原水協主催の「平和大行進」に参加してきています。

氏はこれら行事に率先して参加され特に平和大行進には退会されるまでの間、佐賀県から三川内で労山旗を引き継いで長崎まで連続10年間参加完遂されたほどの強者でした。

今年もこの行事は連綿として継続され8月1日～6日に無事終了した。奇しくも小生は今年から県連理事として平和担当をおおせつかっておりこの因縁から本弔慰文を氏にささげるものである。

氏はまた元会員園田正人氏編集による平成16年オレンジ25周年記念のいわゆるオレンジの歌の本「イエローブック」の発行責任者でもある。

小生は氏が会長時の平成16年の入会で集団登山の初心者だったが入会3年目に山行部長に推され以来9年間継続したが、その経緯をオレンジ30周年誌に特徴ある会長の容貌・横顔を、贋作「もう山なのか」に

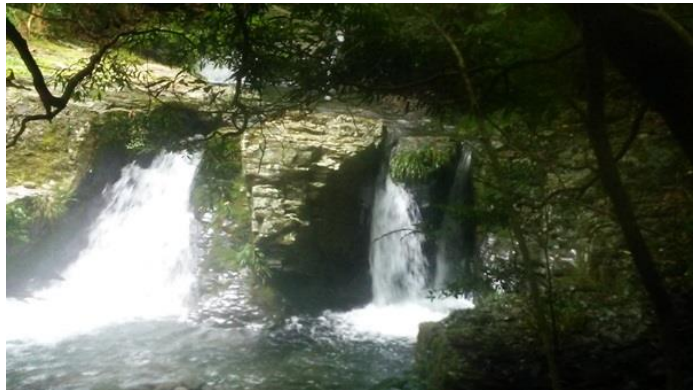
＜ ♪1）：省略……、♪2）：省略……、♪3）：部長というもの辞めたくてえー、四角あたまの会長のおー、熱い横顔ながめていたらー、無駄な希望とあきらめたー、ああこの悲しみわあー、……＞と歌わせていただき、前会長の忘れがたき記憶となって頭に残っている。

宮島茂吉さん、法名「秀繁茂材放光善士」に、ここに厚く哀悼の意を表しご冥福をお祈りいたします。合掌

平成27年8月7日

（労山県連 平和担当理事 中須賀孝正）

滝・たき・夕キ・沢・沢



まだまだ、暑い日が続きます。暑中お見舞いの滝&沢の写真を集めてみました。小松尾公園、銀鈴溪、菅生の滝、宝満山裏ルート、そして北海道の層雲峡の滝でしょうか？眺めて涼しいマイナスイオンをどうぞ



富士登山の軌跡

7月31日、絶好の登山日和、八合目からの富士登山はまさしく、登山銀座。頂上からは雲海に綺麗な影富士を見る事が出来た。(宮崎)リベンジ成功



おれんじニュース 306	
発行元	オレンジハイキングクラブ
発行責任者	福岡 正 廣
編集責任者 及び 編集委員	山下ちず子 福岡正廣、兵庫芳隆、中野美津子、山口いつ子、 林 和子、山下文代、鎗水律夫
発行年月日	2015.8.26
財政担当	
郵便振替口座	
ホームページ	http://orangehikingclub.com/

今月はうれしい悲鳴を上げながら編集しました。原稿と写真がこれでもかという程沢山集まりました。もっと掲載したい写真があったのですが紙面の都合上ここまでになりました。北海道や富士山やオレンジHCの行動の広さに乾杯です。ありがとうございました。

(山下ちず子)